

清水合金製作所

連載シリーズ②

営業マン

数珠つなぎ

東京営業所
課長 寺野 良行 氏イチオシ
製品

カロック

補強金具で古い消火栓を守る
新製品開発お客様の目線で

2番手は東京営業所課長の寺野良行氏。本社勤務を経て今年で入社25年目を迎えた。関東地域の営業担当として、これまで静岡、新潟、千葉、神奈川、埼玉、栃木の各県を担当し、現在は埼玉県と栃木県の2県に軸足を置いて製品セールスと顧客サービスに取り組んでいる。

「緊急遮断弁をはじめ、定期的な維持管理が欠かせない特殊製品のメンテナンスの提案、デモカーを用いた製品のデモンストレーション、新製品の提案など、業務内容は多種多様です。万が一、納入品に不具合が発生した場合は最優先で対応するなど、迅速な現場対応を心がけています」と語る。

近年は老朽化した地下式消火栓の長寿命化に関する相談が増え、イチオシ製品『カロック』の製品化に携わった。

カロックは消火栓の弁箱とパッキン箱の接合部を補強する製品で、5本のボルト・ナットに被せ、六角穴付きボルトを所定のトルクで締め付けるだけで設置作業が完了する。取り付け後も口金用継手の着脱操作が可能で、ステンレス製の本体と消火栓が接触する部分にはエポキシ粉体塗装を施し、異種金属接触腐食の発生を防止するなど、ユーザビリティの高さも魅力だ。

寺野氏は開発に至った経緯について「初期の単口消火栓の弁箱締付ボルトは一般構造用圧延鋼材製のため、経年劣化に伴う腐食が進行し、水道事業体は破断に伴う漏水事故や破損リスクを常に抱え続けることとなります。ボルト・ナットの交換作業自体も危険を伴うため、本来であれば消火栓を更新することが最も望ましい」とした上で、「大半のお客様は限られた事業費の中で、老朽化しつつある器材を極力長寿命化し、同時に作業時の安全性も確保したいという考えをお持ちです。熟練作業員でなくても安全かつ確実に、かつ経済性に優れた補強金具を製品化できないかという相談を数多く寄せて頂いたことが開発のきっかけとなりました」と振り返る。

その後、社内の技術開発部門や水道事業体職員との打ち合わせを重ね、フィールド試験も実施する中で完成度を高めた。

販売開始から3年目を迎えた現在、水道事業体からの引き合いが強いと日々感じている。「取り付けしやすいと好評頂いています。カロックの製品化に深く携わったこともあり、喜びもひとしおです。」

販売開始から3年目を迎えた現在、水道事業体からの引き合いが強いと日々感じている。「取り付けしやすいと好評頂いています。カロックの製品化に深く携わったこともあり、喜びもひとしおです。」



お客様との日々の会話ヒントに

メーカーとして開発、生産、販売の各部門が連携、一体化することが非常に重要であると改めて実感しました」と喜びを語る。

経験豊富なベテラン営業マンとして、大切にしている考えがある。「水道資産を健全に保ち、守る技術と製品で少しでも貢献したいと考えています。温かいお客様に支えられながら業務に取り組める環境に感謝するとともに、何気ない日々の会話の中に隠れている製品開発のヒントを掴むアンテナに磨きをかけたい」と熱っぽく語る。水道事業体の目線に立ったマーケットインの製品開発を強く意識し、今日も精力的に活動する。



取り付けしやすいと好評

宮島教授のコメント



高度成長期に急速に整備された水道システムは一気に更新時期を迎えようとしている。もちろん、これは管だけではなく、属具と呼ばれる弁類や消火栓も同様である。しかし、水道事業の厳しい経営状況の中では、更新がなかなか進まないという現状がある。この「カロック」は水道システムに長寿命化という選択肢を提供する画期的な製品であるといえる。すなわち、消火栓全体を更新するのではなく、老朽化が顕著で弱点となる部分だけを強化し、全体の長寿命化を果たすという取り組みは高く評価できる。また、ステンレス製の本体と消火栓が接触する部分にエポキシ粉体塗装を施し、異種金属接触腐食を防止するといったきめ細かな配慮や、熟練作業員でなくても安全かつ確実に取り付けることができる構造に、職人技を感じる。